家畜保健衛生所たより　　令和2年度第63号　令和3年1月8日

CSF（豚熱）継続発生！

飼養衛生管理基準遵守の徹底をお願いします！

令和2年12月、山形県・三重県の**ワクチン接種養豚場**で相次いで豚熱が発生しました（国内60例目・61例目）。

また、県内でも**野生いのしし**において陽性個体が**継続して確認**されています。

ワクチンを接種していても、
・全ての豚が免疫を獲得できているわけではなく、
・全ての子豚に適切な時期にワクチン接種をすることは困難を伴うことから、

ワクチン接種農場においても**免疫を獲得していない豚**が存在します！

生産者の皆様へ、

※ワクチン接種で**安心することなく**、引き続き**飼養衛生管理基準の遵守**と不備がある場合には**早急な改善**をお願いします。
〇車両・物や畜舎周囲の消毒、〇長靴や衣服の交換・消毒
〇毎日の健康観察、〇野生動物の侵入防止　等

※慢性型のCSFは、特徴的な症状がなく**気がつきにくい**疾病です。
発熱、**食欲不振**、**元気消失**、**うずくまり**、**便秘に継ぐ下痢**、**呼吸障害**、**死亡頭数の増加**等の異状を発見したら、**すぐに**家畜保健衛生所まで連絡ください。

連絡先：山梨県西部家畜保健衛生所
電話：０５５１－２２－０７７１　ＦＡＸ：０５５１－２２－６７２８
夜間・土日・休日の連絡先：０９０－５５６４－１０１８
土日・休日の連絡先：０９０－５５６８－０８１７

豚熱ワクチン接種農場における飼養衛生管理の重要性

○ ①ワクチン接種をしても全ての豚が免疫を獲得できるわけではないこと、②全ての子豚に適切な時期にワクチン接種をすることは困難であることから、ワクチン接種農場においても免疫を獲得していない豚が存在。

○ このため、ワクチン接種農場においても、豚熱ウイルスの農場侵入防止のための、飼養衛生管理の徹底と豚に異状がみられた場合の早期通報が必要不可欠。

①免疫付与率80%

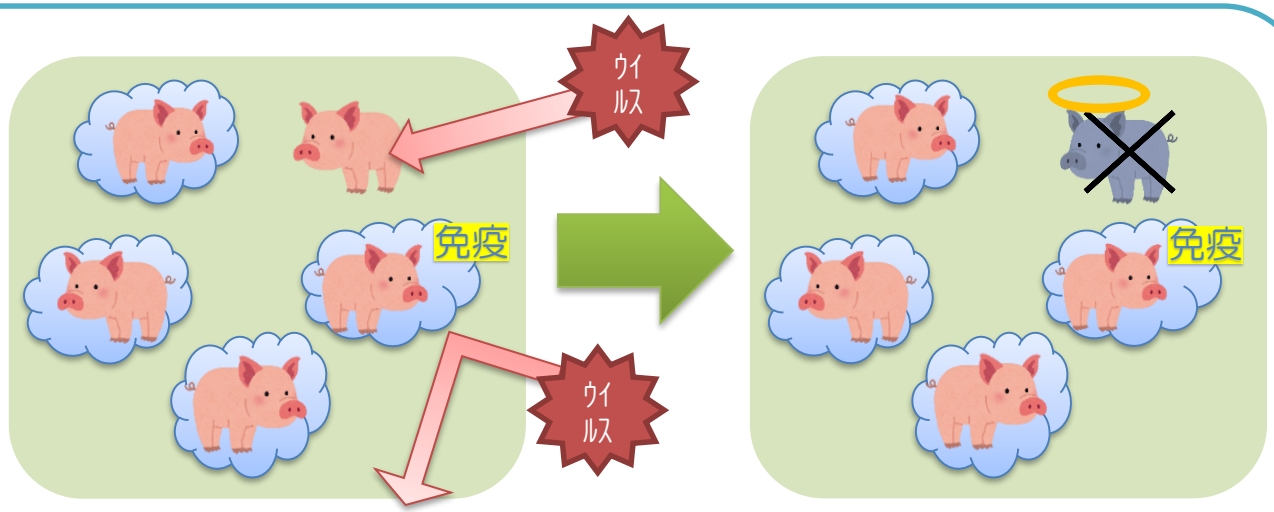
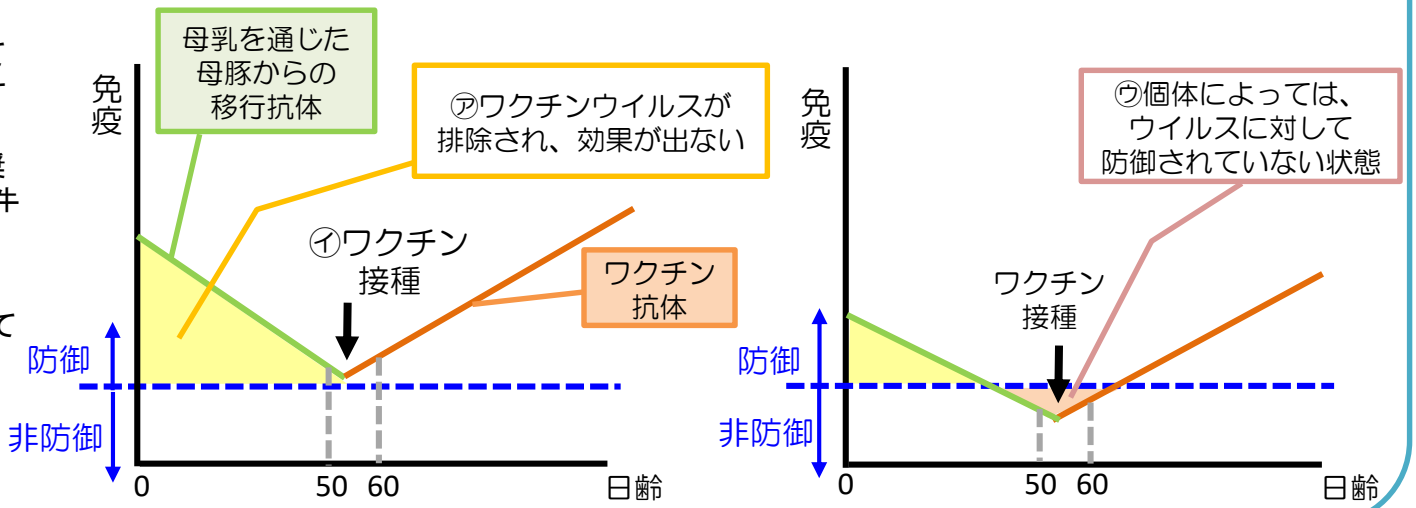
■ワクチン接種をしても全ての豚が免疫を獲得できるわけではない。

・ ワクチンの抗体付与率は80～90%

②子豚

■全ての子豚に適切な時期にワクチン接種をすることは困難。

㋐ 母乳を通じて母豚から移行する免疫の量が多い期間は、接種してもワクチンウイルスが排除され、ワクチンの効果がない

㋑ 母豚から移行した免疫の量は漸減していくため、適切な時期にワクチンを接種すれば、効果が発現
・用法・用量では、1～2か月齢での接種を推奨
・現状、50～60日齢程度での接種が望ましい（牛豚小委議論）

㋒ しかしながら、個体によりワクチンの適切な接種時期に差異があることから、全ての子豚に適切な時期にワクチン接種することは困難